バスケットボール戦評記入用紙

大会　　埼玉県高等学校バスケットボール新人大会
日時　　平成 26 年 1 月 19 日 日 曜日　　第 1 試合　 A コート 時刻 10:00
記入者名　　中村 敬子

Aチーム	得点		得点	Bチーム
埼玉栄 高校	65	24 — 13 14 — 11 14 — 9 13 — 9	42	川口総合 高校

＜戦 評＞

1P 埼玉栄は ＃4，6，8，10，13 マンツーマンディフェンス 対する川口総合は ＃5，7，12，13，14 3－2ゾーンディフェンスでスタートする。埼玉栄は、大黒柱の＃5を欠いているからか、ゾーンに対する攻撃にリズムがなく、タイミング良くインサイドにボールが入らないため、崩しきれない。
一方、川口総合はセットオフェンスがうまく機能せず、シュートまでいかないうちのターンオーバーが目立つ。残り5分で9－6 埼玉栄リードのロースコアでゲームが進む。埼玉栄が、相手のミスから＃10の3Pシュート、＃13のバスケットカウント1ショットへとつなぎ、14－6と差を開いたところで、川口総合タイムアウト。なんとか埼玉栄の流れを食い止めようとするが及ばず、24－13 埼玉栄11点リードで終了。

2P お互いにオフェンスのリズムが悪い中、埼玉栄は、相手のターンオーバーを得点に結びつけ、残り5分で 34－15 とリードを広げたところで、スタートのメンバーをベンチに下げる。川口総合は奮起し＃14の3Pシュートや、＃13のシュートで追い上げ 38－24 で終了。

3P 後半に入っても川口総合は3－2ゾーンディフェンスで守る。埼玉栄は、メンバーを変えながら試合を進める。ゾーンに対してシュートの確率も上がらず得点は伸びないが、それ以上に川口総合のオフェンスが思うように機能せずターンオーバーを繰り返し追い上げることができない。52－33 じわじわと差を広げられて終了。

4P 最終ピリオドに入っても大きく流れは変わらず、埼玉栄は、スタートメンバーを下げて休ませる余裕をみせ、終わってみれば 65－42 と埼玉栄の貫禄勝ちであった。